

栃木県におけるMRI検査に関する 実態調査(平成26年)

栃木MRI技術研究会

目的

- 栃木県内のMRI装置保有施設の検査環境・安全管理・医療事故等の実態調査をおこなったので報告する

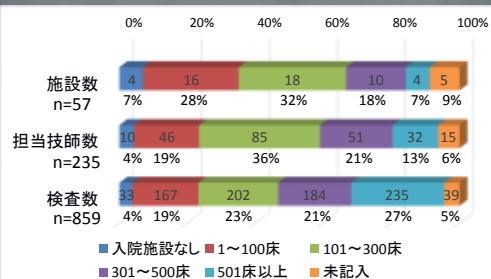
方法

- 栃木MRI技術研究会が主体となり、平成26年1月から4月にかけて、栃木県内でMRI装置を保有していると思われる70施設に郵送にて『MRI検査に関するアンケート』を実施した

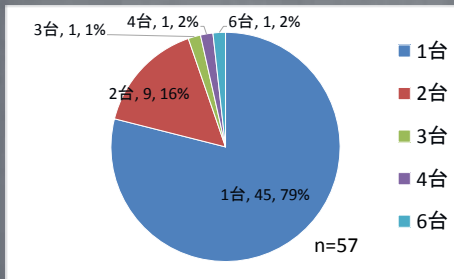
アンケート回収率

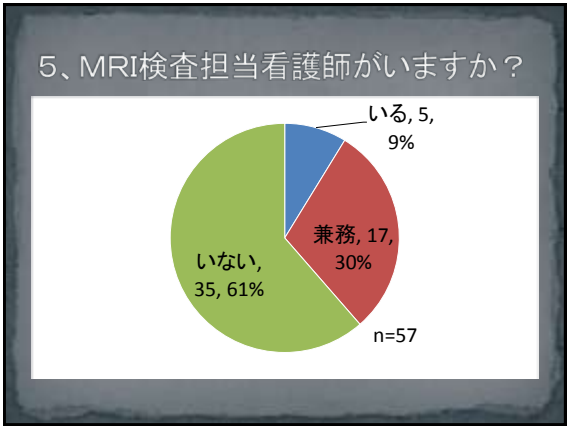
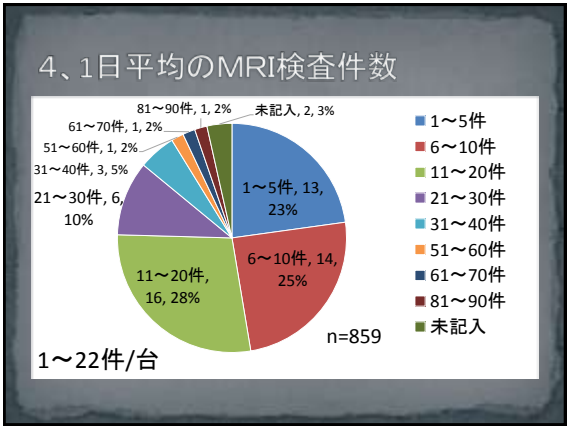
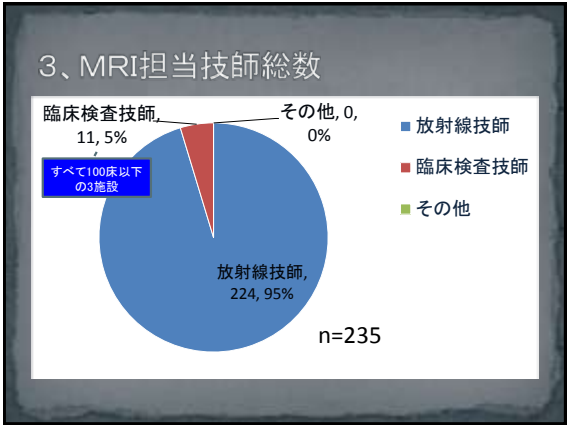
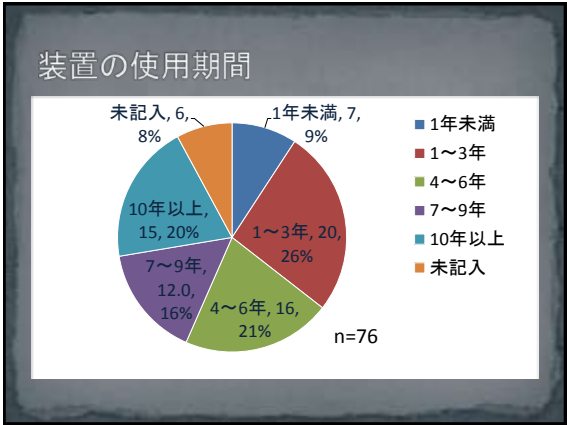
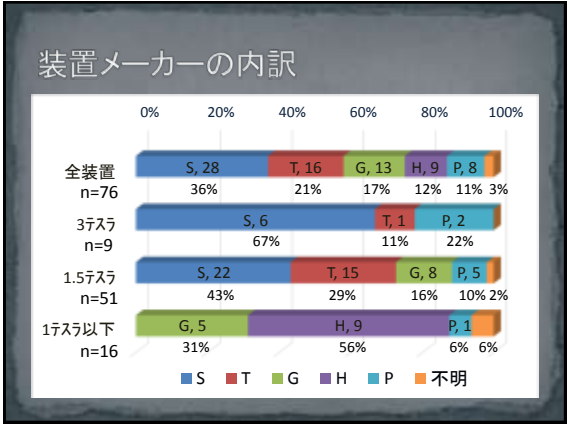
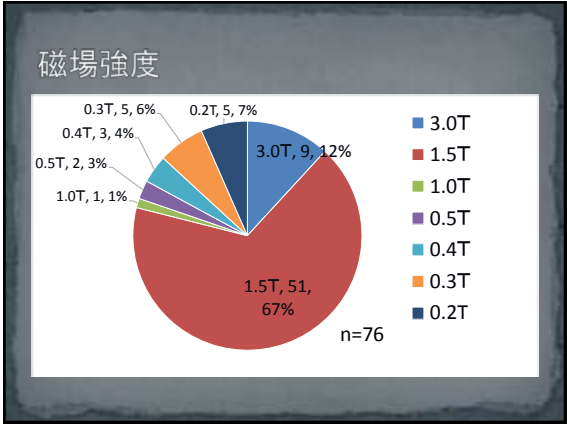
- 回収アンケート数: 58通 (82.9%)
- 有効回答数: **57施設 (81.4%)**
- 内訳
 - 入院施設なし: 4施設
 - 1～100床: 16施設
 - 101～300床: 18施設
 - 301～500床: 10施設
 - 501床以上: 4施設
 - 未記入: 5施設

1、施設に関すること(病床数ごとの内訳)

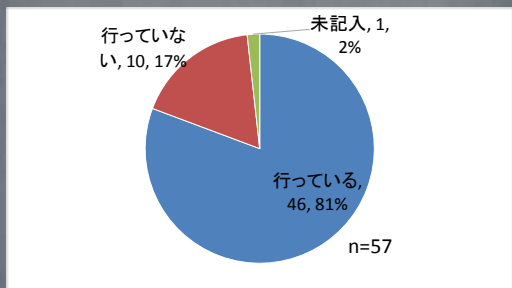


2、MRI装置について(保有台数)

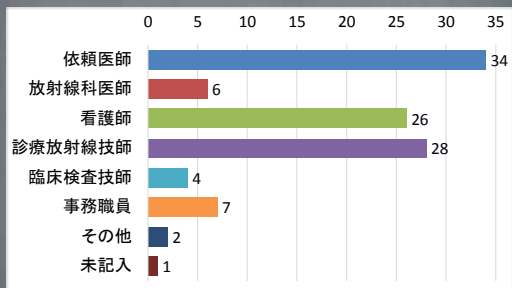




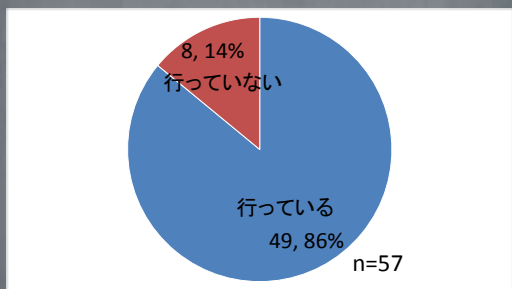
6、患者にMRI検査についてのリスクを説明し、同意をとっていますか



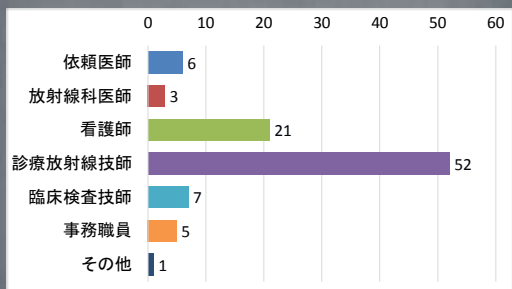
説明と同意をとる職種は？(複数回答)



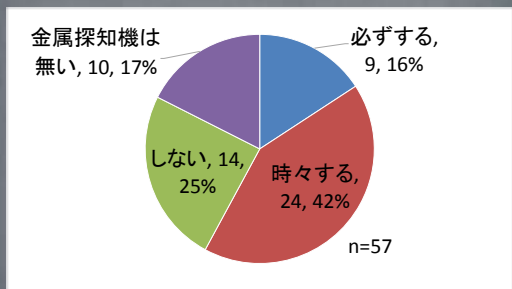
7、主治医がオーダー時に体内金属の確認を行っていますか



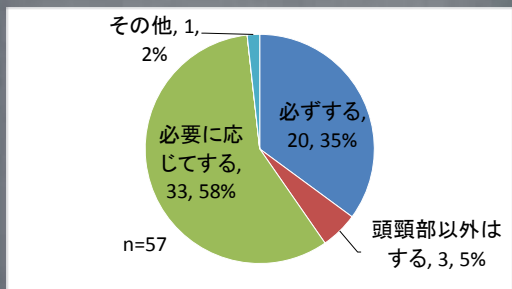
8、MRI検査室入室前の安全確認は誰が行っていますか？(複数回答)



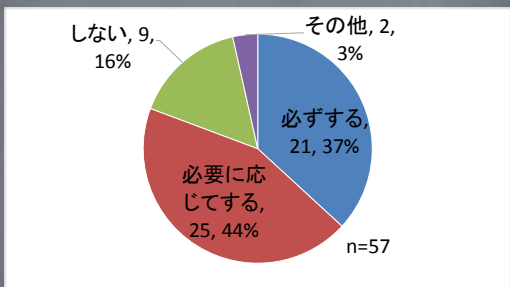
9、金属探知機によるチェックを行っていますか？



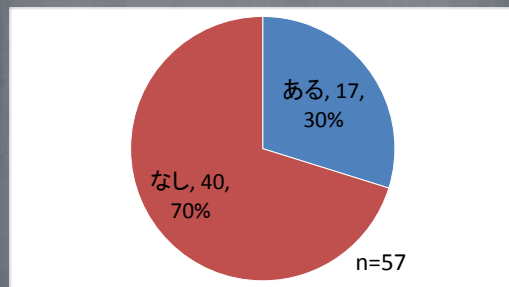
10、患者さんに検査着の更衣を行っていますか？



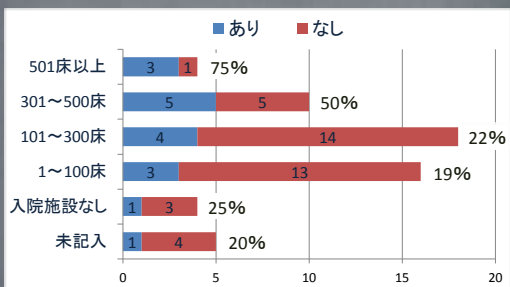
11、MRI検査室前で専用スリッパに履き替えていますか？



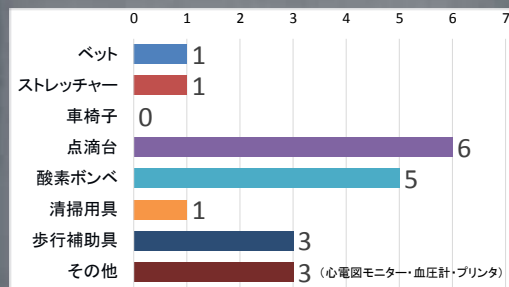
12、大型磁性体の吸着事故を起こしたことがありますか？(過去10年間)



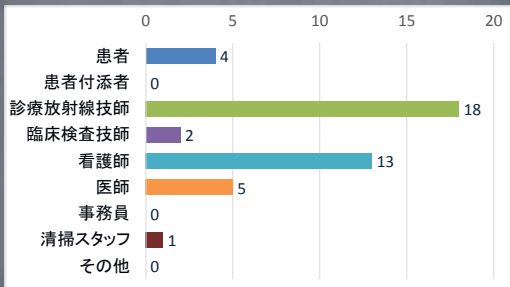
病床数と吸着事故との関係



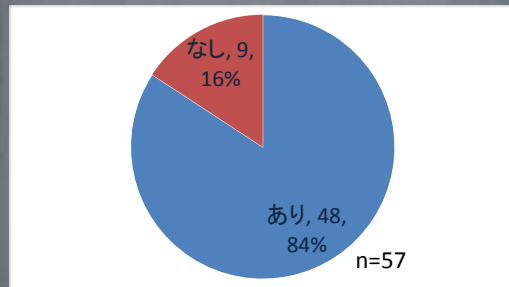
吸着された大型の磁性体



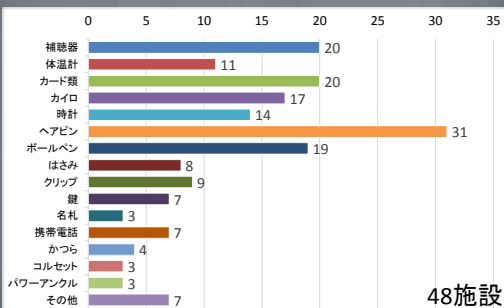
吸着事故が発生したとき、携わった職種は？(複数回答)



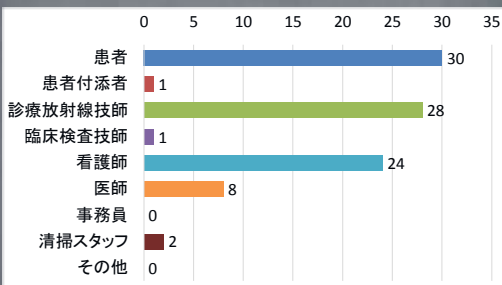
13、誤ってMRI検査室内に持ち込み、飛ばしたり破損した事例がありますか(過去10年間)



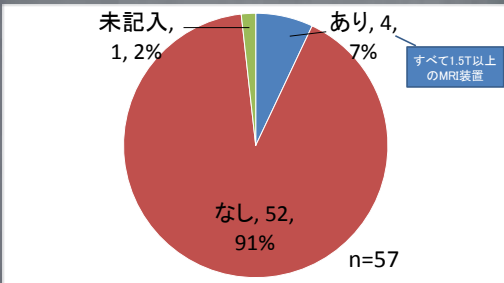
検査室に持ち込まれた小型磁性体



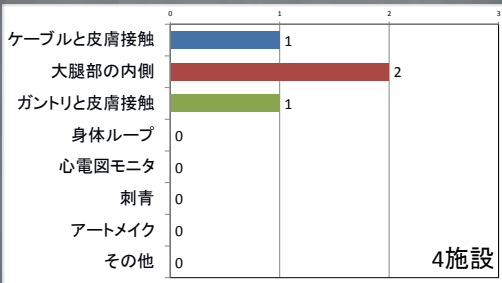
誤って検査室内に持ち込んでしまった職種は？（複数回答）



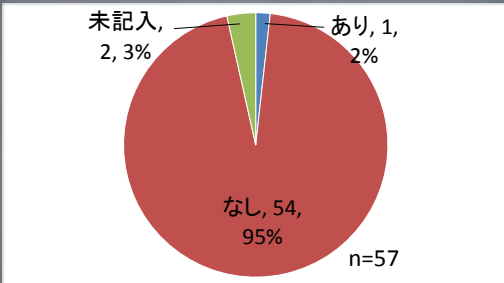
14、患者さんに火傷を負わせた経験がありますか（過去10年間）



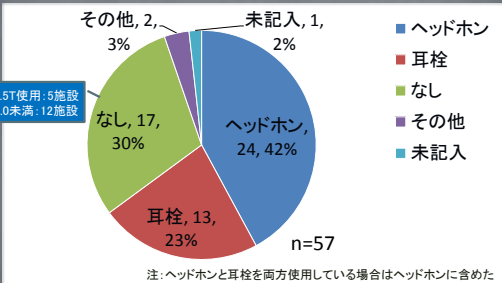
15、火傷の原因と発生部位



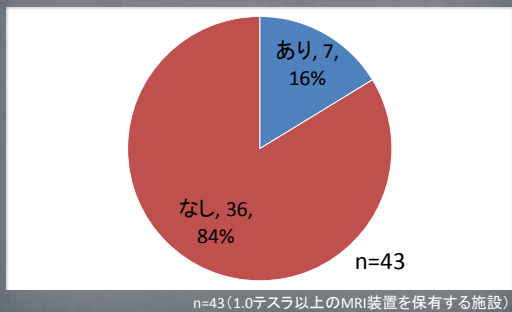
16、神経刺激により検査を中止したことがありますか（過去10年間）



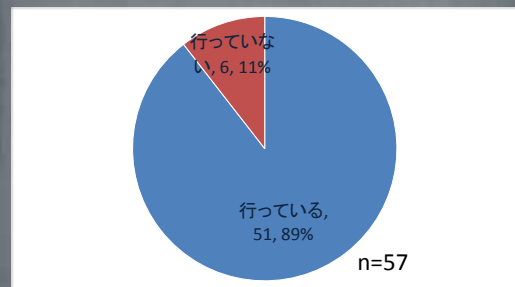
17、騒音対策としてなにを使用していますか



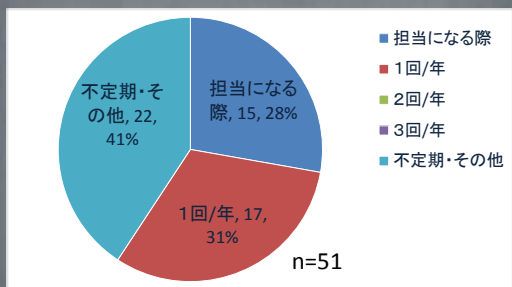
18、クエンチが発生したことがありますか(過去10年間)



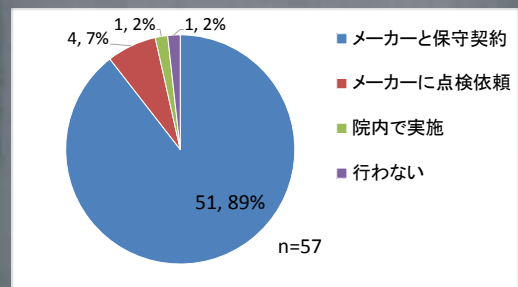
19、MRI検査室に入室する医療従事者に対して安全教育を行っていますか



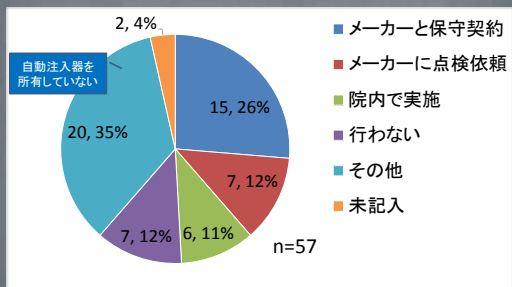
20、安全教育を行う回数と時期を教えてください



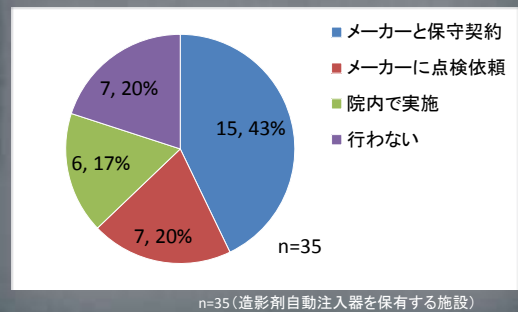
21、MRI装置の保守管理はどのように行っていますか



22、造影剤自動注入器の保守管理はどのように行っていますか



自動注入器の保守管理はどのように行っていますか(設置済み)



結論

- MRI検査について同意書をとる施設、従事者への安全教育を行っている施設が8割を超えていた
- MR検査における危険因子である吸引事故、クエンチが予測していた以上に発生していることがわかった
- 吸着事故の発生頻度は病床数が多くなるほど高くなった

アンケート調査票の回答に協力いただいた
多くの施設の皆様に感謝いたします

ご清聴ありがとうございました